

第 120 号

育成会 会報

令和 6 年度版

発行所

一般社団法人
広島県手をつなぐ育成会

広島市西区打越町17-27
育成会総合福祉センター内
TEL (082)537-1773
FAX (082)225-7555
編集責任 金子麻由美

共に楽しみ絆を深める大会を目指して

大会実行委員長 廿日市市手をつなぐ育成会 栗栖 俊泰



第49回広島県
知的障害者福祉
大会は、令和6
年（2024）
11月17日（日）、

18年振りに廿日市市の「はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ」を会場に開催いたします。

今年の県大会は、県西部圏域の廿日市市・おおの・大竹市の3育成会が共催で開催するもので、大会メインテーマのキーワードである「絆」を、市域を超えてつなぐ大会でもありません。

私は3年前、突然のご指名により廿日市市育成会会長に就任しましたが、コロナ禍の活動自粛の中で右も左もわからぬまま、今大会の実行委員長を務めることになりました。

今大会のテーマである、「つながるう ひろげよう 手と手をつなぐ絆の輪を!!」は、私自身が地理的不利な地域で障害のある娘を育てていく中、人や事業所、地域や行政とのつながりや絆に強く助けられた経験に基づき、「この思いを皆と分かち合いたい」との思いで考えさせていただきました。

前回廿日市市で大会を開催した18年前、国連で障害者権利条約が採択され、その後の国内法や各自自治体の条例整備などにより、障害があっても暮らしやすい社会の実現に近づきつつあると感じますが、まだまだ障害への理解は進んでいないと言えません。だからこそ、福祉の原点である人と人をつなぐ「絆」を再認識する大会となるよう、人と人とのつながりを感じる内容としました。

一般大会は、近年頻発する災害時に、自助・共助・公助をお互いの「絆」で機能させるためのシンポジウムと、書家の金澤祥子さんのお母様による講演会の2部構成で行うフル開催となります。

本人、支援者、家族が共に楽しみ

絆を深める大会にしたいと思いつくので、廿日市市へのお越しを心からお待ちしております。終わりに、大会を開催するに当たり、廿日市市、大竹市をはじめとする各団体・関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

みなまな たの 皆で学び、楽しみましょう

はつらつ大会現地実行委員長 宮田 陽子

(廿日市市手をつなぐ育成会 さくらんぼの会会長)

皆さん、こんにちは。11月17日に第22回はつらつ大会

廿日市・大竹大会を開催します。

今年のスローガンは「人との出会いを大切に絆を深め

よう」です。

午前中は「防災について」の勉強会があります。私たちも、いつ、どのような災害にあうかわかりません。仲間の体験談の発表を聞き、防災グッズを選んで、皆さんと一緒に勉強しましょう。

午後からは3グループに分かれます。行政との話し合い、バレーンアーチェリー体験、けん玉体験です。その後には音楽鑑賞もあります。

皆さんとの出会いを大切に、大いに絆を深められるような大会にしましょう。

たくさんの皆さんに出会えることを、楽しみにしています。



圏域でのつながりを大切に

大会会長 金子 麻由美

第49回広島県知的障害者福祉大会並びに第22回はつらつ大会を、日本三景の一つであり世界文化遺産の厳島神社がある廿日市市で開催いたします。

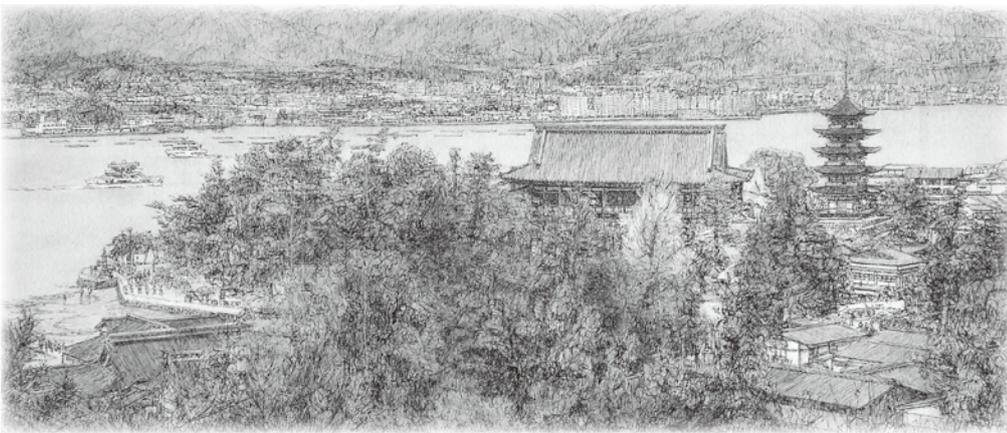
今年度の県大会のメインテーマは、「つながろう ひろげよう」と手をつなぐ「絆」の輪を!!。廿日市、おのおの、大竹の広島西圏域の育成会の皆様の共催で、まさに手をつないでの開催となりました。

書家の金澤翔子様のお母様である金澤泰子様「ダウン症の娘と共に生きて」の演題でご講演いただきました。また、その後「絆」が救ういのち「災害について学び、考え、つながろう」をテーマにシンポジウムを広島西圏域の皆様にご登壇いただき、実際起こった体験から学びを深めたいと思います。今年8月に宮崎沖で発生した地震で、初の「南海トラフ巨大地震」の注意が1週間程度継続し、心配された方も多いことと思えます。いつか起きるであろう大地震にしっかりと備えることが必要です。

また、本人大会でも、災害についての勉強会や行政との話し合いの他に、バルーンアーティスト体験やけん玉体験などを通して楽しく実のある交流を予定しております。

今年度も、本人の皆様が決議文を一生懸命考えられました。「私たちのことを私たち抜きで決めないでください」とおり、本人の意見に耳を

傾け、今後も各支部で本人支援が活発になりますことを期待しています。皆様方にとりまして、本大会の開催をとおして、ますますネットワークの輪が広がり、絆が深まっておりますことを切に願っております。



おのおの手をつなぐ育成会について

おのおの手をつなぐ育成会会長 新谷 庄

「おのおの手をつなぐ育成会」は、「我が子がこれから安心して生活、認められた生き方ができること」を目標として結成されました。平成17年に大野町と廿日市市の合併を機に「大野町手をつなぐ育成会」から今の名称に変更しました。現在の会員は9名(世帯)です。設立当初から行政との関わり、地域団体、ボランティアの交流を大切にして活動してきました。

新型コロナウイルス流行前は定例に活動していましたが、コロナ流行により地域内の行事も中止、休止となり会の活動も自粛しました。現在も万が一の感染による本人との接触制限、重度化を避けて全体の集合、

大会開催に当たって

今大会は世界文化遺産「厳島(いづくしま)」の懷に抱かれる西部圏域での開催です。廿日市・おのおの・大竹三支部が初めて合流し互いにより刺激を受けながら思いを一つに準備を進めています。

メインテーマは「つながろう ひろげよう」と手をつなぐ「絆」の輪を!!。私たちは、頻発する自然災害が今や他人ごとではないという危機感を持っています。では、どの様な事態を想定し、自分と大切な人の命と心をどう守ればいいのか。

大竹市手をつなぐ育成会会長 尾池 菜緒美

このたびは、第49回広島県知的障害者福祉大会廿日市・大竹大会、第22回はつらつ大会(本人大会)廿日市・大竹大会開催によって、それぞれの地域で障害のある人が「安心して生活できる、認められた生き方ができる」ための新しい「絆」ができ、それが「より強く、太く」なることを願います。

一般大会のシンポジウムでは、『災害』そのものの情報や、被災の体験談、医療的ケアの必要な子どもへの母の思いを聴き、支援が必要な人にとつての安心・安全を考えます。講演会では、あの金澤泰子さんが一人の母として語り、大会に希望の華を添えてくださいます。はつらつ大会も充実した内容となっております。11月17日、宮島さんのエネルギーがふりそそぐ大会へのご来場を心よりお待ちしております。ご協力くださる皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

第49回広島県知的障害者福祉大会 廿日市・大竹大会 第22回はつらつ大会（本人大会） 廿日市・大竹大会

【テーマ】

メインテーマ 「つながろう ひろげよう 手と手をつなぐ“絆”の輪を！！」

- 一般大会 「心通うネットワークの構築を目指して」
- はつらつ大会（本人大会） 「人との出会いを大切に 絆を深めよう」

一般大会

9:30	10:00	10:45	11:40	12:30	13:30	13:40	15:00	15:30
受付	開会式	シンポジウム “絆”が救ういのち		昼食 休憩	金澤泰子さん講演会 「ダウン症の娘と共に生きて」		閉会式 大会決議	

はつらつ大会（本人大会）

9:30	10:00	10:30	11:40	12:40	13:40	13:50	14:50	15:00	15:30
うけつけ 受付	かいかいしき 開会式 くさのみ作業所 和太鼓クラブ 「情熱」演奏	べんきょうかい 勉強会 さいがい 災害について ●体験発表 ●防災グッズを入れてみよう ●行政の人からのアドバイス	ちゅうしょく 昼食 きゅうけい 休憩	Aグループ 行政との話し合い Bグループ バルーン・フェリ体験 Cグループ けん玉体験など	おんがくかんしょう 音楽鑑賞 ●ピアノ演奏 ●廿日市吹奏楽 教室の演奏	きゆうけい 休憩	かいかいしき 閉会式 たいかいけつぎ 大会決議		

【場所】

＊はつらつ文化ホール ウッドワンさくらびあ

〒738-8509 廿日市市下平良一丁目11番1号 電話 (0829) 20-0111

- 一般大会会場 ウッドワンさくらびあ 大ホール
- はつらつ大会（本人大会）メイン会場 ウッドワンさくらびあ 小ホール
- 分科会会場 リハーサル室、会議室他

【趣旨】

国連で障害者権利条約が採択された平成18年（2006年）から18年が経過し、障害者を取り巻く環境も国内法の整備と様々な改正により、制度の改善が進められサービスの充実やその選択の幅も広がりました。

しかし、30年間もの長いデフレ期間から脱却しつつあるとは言え、物価や燃料の高騰、地域間格差の拡大など、障害者の生活環境はまだまだ厳しさを増しています。

ネット社会が進み、必要な情報の入手や手続きも簡単にできる時代となりましたが、だからこそ福祉の原点である人と人をつなぐ“絆”の重要性を再認識し、行政・医療・福祉や市町を超えた心通うネットワークの構築をこれまで以上に進める必要があります。

この大会は、自治体の枠を超えた障害者の様々な現状を語り合い共有することで、SDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない」社会に近づけるよう、暮らしにくさを抱える全ての人たちを地域で支え、お互いの力を高め合うための大会とします。また、本人たちによる本人たちのための大会を開催し、障害者本人の主体性を尊重するとともにつながりひろがる活動の充実を図ります。

この大会を通じて、市民の皆さんに育成会活動をもっと知っていただける機会となることを願っています。

【一般大会 シンポジウム】

テーマ “絆”が救ういのち ～ 災害について学び、考え、つながろう ～

基調報告 「広島県への南海トラフ地震の被害想定について」

廿日市市危機管理担当部長 吉見 圭一 氏

コーディネーター	社会福祉法人くさのみ福祉会理事長	川本 義弘 氏	
シンポジスト	廿日市市健康福祉部長	向井 政人 氏	
	串戸地区自治協議会・自主防災会会長	梶川 誠 氏	
	広島県立廿日市特別支援学校PTA	新谷 ゆみこ 氏	
	大竹市手をつなぐ育成会	浜本 かずみ 氏	

【講演】

〔講師〕 金澤 泰子さん（金澤 翔子さん同伴）
〔演題〕 「ダウン症の娘と共に生きて」

【参加について】

事前申し込みは終了しています。当日参加は可能です。
一般大会 1000円（資料のみ・弁当なし）
はつらつ大会 700円（資料のみ・弁当なし）

金澤泰子さん

〈プロフィール〉
書家。随筆家。
ダウン症の書家として知られる金澤翔子さんの母。



「廿日市市手をつなぐ育成会」の活動

「廿日市市手をつなぐ育成会」は、昭和53年に発足しました。心身に障害がある人たちが、地域の一員として豊かに安心して暮らせるように、会員が共に協力し合い活動しています。

全体的な活動としては、毎月の定例会、勉強会、グループホーム等の見学、レクリエーション等です。あいづらまつりや、市民活動センターフェスティバルにも参加しています。成年後見制度やサポートファイル、災害時の障害者支援、親亡き後のライフプラン等、様々な勉強会を開催してきました。

また、若い会員さんたちのグループができ、現在は5グループが増え、色々な取組を行っています。料理、陶芸、版画、さをり織り、ガイドさんとお出かけ、本人活動・話し合い、学習会、お茶会などです。

コロナ禍で定例会はじめ様々な活動が制限されていましたが、五類になり、コロナ前の活動ができるようになりました。会ができて46年たち、会員の高齢化、学齢期の会員の減少と課題がありますが、色々な機会を利用して、育成会を知ってもらい、興味を持ってほしいと思います。



手をつなぐ育成会アダージョ支部紹介

大野地域には生活介護・就労継続B型事業所のアダージョとレントがあります。そのアダージョの中に「手をつなぐ育成会アダージョ支部」を令和元年に立ち上げ活動をしています。

アダージョには、お手の手をつなぐ育成会のメンバーも通所しています。仕事はカキの殻通し、段ボール回収、リサイクル品の回収（ペットボトルやアルミ缶）、パン作りと販売、内職

作業や畑作業などその人にあった作業がいろいろあります。他にはカラオケ・創作活動など自分のやりたいことにチャレンジしています。年間行事の花見・クリスマス会などの季節イベント、日帰り旅行や食事会などのイベントが楽しみな皆さんです。

見学の人に「楽しそう、のびのび自由な感じ」と言ってもらえます。実際小さなトラブルもありますが、皆さん楽しく仲良く過ごしています。



大竹市手をつなぐ育成会の活動

大竹市手をつなぐ育成会会長 尾池 菜緒美

広島県の『住みやすい街ランキング1位』大竹市を『ご存知ですか？大竹市手をつなぐ育成会の活動は、会員の皆さんの住みやすさを将来につなぐための活動です。』

「大竹市をつなぐ育成会として活動するうえで大切にしていることは、周りの皆様にお手伝いいただき感謝しながらいつも繋がっていることです。お蔭様で中四国大会や又村常務理事のセミナーは、社協のご協力でリモート参加が可能になり、スクリーンを使って皆様と視聴しました。クリスマス会では市長始め、県議・市議の皆さん、福祉課、民生委員児童委員、ボランティアさん、日ごろお世話になっている方々と一緒に楽しく盛り上がりです。」



正会員数26名、本人を支える家族も高齢化して、お楽しみ行事への参加が難しい方が増えてきました。そんな中で育成会の市民活動は、大竹市地域自立支援協議会への参加等で活性化していると感じています。自立支援協議会下部組織の地域生活部会を作り、月1回当事者やボランティアさん、福祉事業者、市職員、市議会議員さんが集い、困りごとの相談や情報交換を行い、知恵を出し合い物事を解決しています。そして、自立支援協議会開催時には、部会の希望者がオブザーバーとして参加しています。部会に参加されている皆様とは互いに必要ない関係づくりできており、今後も地域生活支援拠点の整備、個別支援と両立するインクルーシブ教育、災害時の対策などの課題を共有して取り組んでい

「育成会でありたいと思っております。歴代の会長が大切に育ててくださった人間関係の上に今の育成会があることに感謝しながら、大竹らしく活動し、「ともに生きる社会」に向かって駒を進めたいと思っています。ステージで踊る仲間たちの写真を添えます。」



廿日市市手をつなぐ育成会 「さくらんぼの会」の紹介

さくらんぼの会代表 宮田 陽子

「廿日市さくらんぼの会」を紹介致します。今から18年前の2006年に、廿日市市で県大会がありました。この大会をきっかけに、本人の会ができました。

島水族館見学、もみじまんじゅう焼き体験をしました。コロナの影響で、ずっといろいろな活動ができなくなっていました。5類になり、少しずつ活動ができるようになってうれしいです。

「さくらんぼの会」の名前は、みんなが話し合って決めました。廿日市の花「さくら」から、たくさんさくらんぼの実をつけていこうと決めました。

最初は4人で始めて、現在は5人で活動しています。活動内容は、主に毎月第三土曜日にあいプラザで例会を開いています。話し合いをしたり、公共の乗り物を使って宮島や、呉の大和ミュージアムや、マリナーホップに行ったり、マツダスタジアム見学ツアーにも行きました。ボウリングや、カラオケは、みんな大好きです。

また、はつらつ大会・すまいる大会（中・四国大会）参加、本人相談会&本人交流会にも積極的に参加しています。私は、「さくらんぼの会」の代表として県の本人部会「はつらつ友の会」に出席しています。



2011年には、「本人による本人のための相談会」が廿日市でありました。当日は、たまたま「ひろしま全国男子駅伝」があって、目の前で選手たちが走るのが見れて参加者の皆さんに喜んでもらえました。



2012年には、廿日市が「はつらつ交流会」を担当しました。3グループに分かれて、宮島散策や、宮



大竹NAKAMA会活動紹介

以前は大竹青年教室（本人部会）と言っていましたが、『横文字にするとカッコイイかなあ〜?』とNAKAMA会に名称を変えて10年がたちます。

コロナウイルス感染症の状況によっては活動中止にする場合もありましたが、大好きな町、大竹で生活する力をつけるために、年度末にはみんなで来年度やりたいことを話し合っ、料理に挑戦したり福祉の勉強、みんな大好きなボウリングをしたりするなど、楽しく活動しています。

一人一人が主体的に行動できるよう会員どうしが意見を出し合ったり、人の思いを聞いたりして、自分たちを取り巻く生活の改善に取り組んでいくことも課題です。活動では、いつもボランティアの方々に協力していただいています。



NAKAMA会
楽しく活動しています。



「おおたけ手すき和紙の里」の方の指導のもと、手すき和紙のハガキ作りに挑戦！



キャベツたっぷりのお好み焼き、みんなで食べると美味しいね！



ストライクが出ると歓声上がり、ハイタッチ!!

すまいる大会（中国・四国大会）にリモート参加



互助制度（旧付添看護料共済）

- ①入院保険 病気やケガで入院したときの補償
- ②傷害保険 本人の傷害（ケガ）の補償
- ③他人への損害賠償金 他人への損害賠償

プランは2つあります Aプラン（12,000円）、Bプラン（18,000円）／年間
補償内容（Bプランの場合 年間掛金 18,000円）

広島県手をつなぐ育成会
会員限定の保険です

- 知的障害のある方対象
- 特別な審査は不要

入院保険	・付添看護保険料	1日に付き	5,000～8,000円
	・差額ベッド費用	1日に付き	3,000円までの実費
	・入院諸費用	1日に付き	1,000円
	・入院一時金	1入院につき	5,000円
傷害保険	・ケガによる入院	1日に付き	3,000円（180日限度）
	・ケガによる手術		15,000・30,000円
	・ケガによる通院	1日に付き	1,000円（90日限度）
	・ケガによる後遺障害		8万～200万円
	・ケガによる死亡		200万円
他人への損害賠償金	・対人・対物 1事故		5,000万円 限度（自己負担なし）

詳しい資料のご請求、お問い合わせは下記までどうぞ。
 <<共済事務局>> 一般社団法人 広島県手をつなぐ育成会
 電話 082-537-1773 FAX 082-225-7555
 <<保険委託引受会社>> AIG保険会社 広島支店
 担当 ジェイアイシーウエスト広島株式会社
 電話 082-511-7025 FAX 082-511-7026

☎お気軽にお電話
ください。